

## 胆沢ダムの役割

- 1 頻発する北上川・胆沢川の水害を軽減する【洪水調節】**  
ダム地点の計画高水流量 2,250 m<sup>3</sup>/s のうち 2,210 m<sup>3</sup>/s の洪水調節を行う
- 2 胆沢平野の安定した営農環境を整える【かんがい用水】**  
胆沢川沿川の約 9,700ha の農地に対するかんがい用水の補給を行う
- 3 奥州市・金ヶ崎町の安定した生活環境を整える【水道用水】**  
奥州金ヶ崎行政事務組合（1市1町）に対し、日最大 46,800 m<sup>3</sup> の水道用水の補給を行う
- 4 クリーンなエネルギーを供給する【発電】**  
胆沢第一・第三発電所においてそれぞれ最大 14,200kW・1,500kW の発電を行う
- 5 北上川・胆沢川の河川環境を保全する【正常流量】**  
塩害防止、河口閉塞防止、動植物の保護、既得用水等の安定供給など、河川を正常に維持するための補給を行う

## 石淵ダムと胆沢ダムの比較

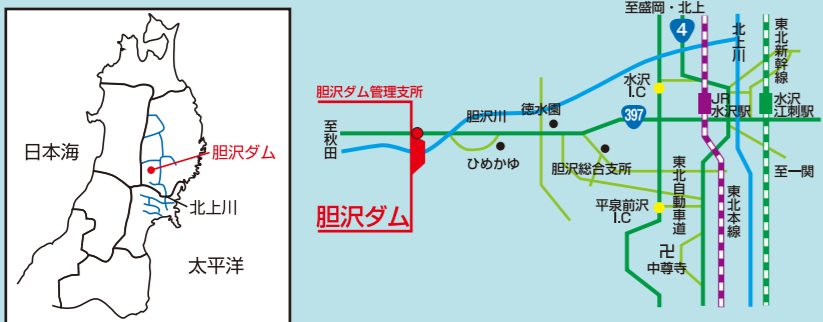


諸元	胆沢ダム	石淵ダム	比較
型式	中央コア型ロックフィルダム	表面濾水壁型ロックフィルダム	-
堤頂標高 (EL,m)	364.0	323.0	-
堤高 (m)	127.0	53.0	約 2.4 倍
堤頂長 (m)	723.0	345.0	約 2.1 倍
堤体積 (m³)	1,350 万	44 万 2 千 5 百	約 30 倍
湛水面積 (k m²)	4.4	1.1	約 4 倍
総貯水容量 (m³)	1 億 4,300 万	1,615 万	約 9 倍

項目	洪水期 (7/1~9/30)	非洪水期 (10/1~翌年 6/30)
堤頂標高	EL.364.0m	-
洪水時最高水位	EL.356.50m	-
洪水調節容量	51,000 千 m³	洪水調節容量 42,000 千 m³
洪水貯留準備水位	EL.342.90m	平常時最高貯水位 EL.345.60m
利水容量	81,000 千 m³	利水容量 90,000 千 m³
最低水位	EL.304.00m	-
堆砂容量	11,000 千 m³	-
基礎標高	EL.237.00m	-

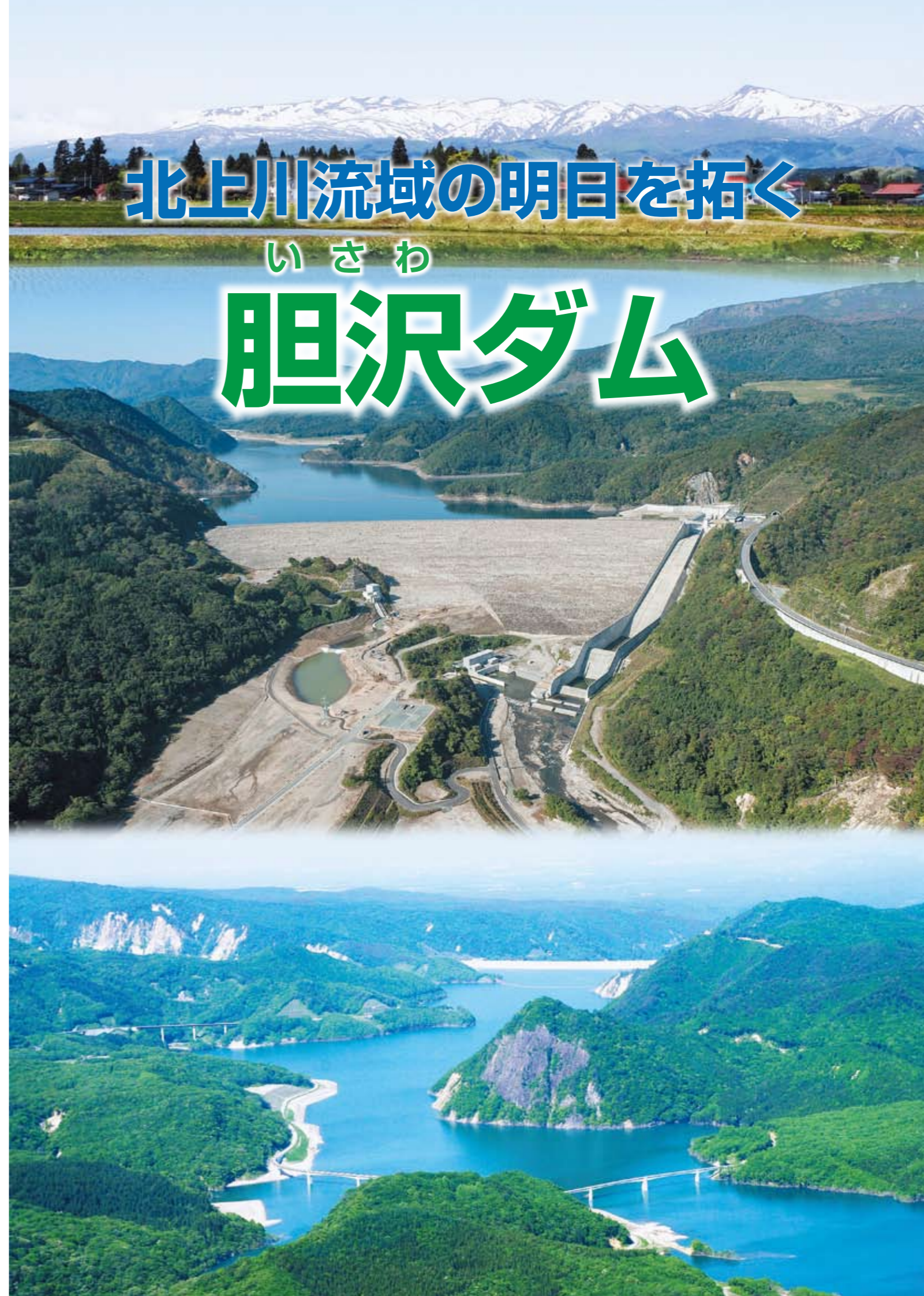
### 胆沢ダム位置図



国土交通省東北地方整備局  
北上川ダム統管理事務所  
**胆沢ダム管理支所**  
〒023-0403  
岩手県奥州市胆沢区若柳字横岳前山6  
TEL 0197-49-2981

交通案内

水沢 I.C.~	車で 30 分
平泉前沢 I.C.~	車で 50 分
水沢駅~	車で 30 分



# 北上川流域の明日を拓く

いさわ

# 胆沢ダム



# 胆沢平野の水文化

## ■胆沢の地に水を引くための先人たちの努力

胆沢川は、古来荒ぶる川と称され、「青山白水」の流れは、日本三大扇状地の一つである胆沢扇状地を形成しました。史書に、胆沢の地は「水陸萬頃」と記されており、また清水下遺跡や日本最北の前方後円墳・角塚古墳の存在などは、古くからこの地に高い文化が根付いていたことを如実に物語っています。

しかし中世まではかんがい設備も整っておらず、扇状地である胆沢の大地を開発するためには、山を削り、谷をくぐり、水を引くといった、過酷な工事が必要でした。先人たちの知恵と努力があったからこそ、現在の胆沢平野があるので。



## ■わが国初のロックフィルダムの誕生

「胆沢扇状地を潤す水」と先人たちが堰の開削を始めてから約500年、胆沢川は、胆沢平野に自然流水を送りつけてきましたが、その後も洪水や、干ばつ等の被害が度々発生し人々の生活がおびやかされていました。これに対処するために、昭和21年に石淵ダム建設に着手し、昭和28年、我が国初のロックフィルダムが完成しました。

人々の喜びは「照れば早魃曇れば出水それも昔の語り草見やれ自慢の石淵ダムはのびる胆沢の底力」と胆沢平野小唄にも唄われています。



石淵ダム  
半世紀以上もの間流域のひとびとを洪水から守り、胆沢平野を潤しました

円筒分水工  
昭和32年、茂井羅環と寿庵環の両環に公平に配水されるようになりました

# 石淵ダムから胆沢ダムへ

胆沢扇状地を潤し、沿川の洪水被害を軽減してきた石淵ダムも、ダムの規模が小さいことから相次ぐ洪水被害や、濁水被害、増加する生活用水への対応が困難になっていました。

これらの対応として、治水面からは北上川の洪水対策、利水面では慢性的な容量不足を解消するため、石淵ダムの再開発事業として胆沢ダムを建設し、治水・利水安全度の向上を図ることにより、安全・安心な生活基盤を築き、そして新たな水文化の幕開けとなります。



【昭和22年9月カスリン台風】奥州市（旧羽田村一帯）の洪水氾濫



【平成14年7月洪水】奥州市（旧衣川村）国道4号の洪水氾濫



【底をついた石淵ダム湖】



【濁水で干上がった胆沢川】



【水田にひびわれが発生】



【給水車による水田への散水】



石淵ダム



胆沢ダム

# 地域とともに…胆沢ダム竣工

## 胆沢ダムのあゆみ

昭和58年4月	新石淵ダム調査事務所開設 実施計画調査開始	
昭和63年4月	建設事業着手 (新石淵ダムを胆沢ダムに名称変更)	
平成元年9月	環境アセスメント手続き完了	
平成2年5月	胆沢ダムの建設に関する基本計画告示	
平成4年2月	一般補償基準妥結調印	(写真1)
平成5年2月	付替国道397号工事着手	
平成11年6月	転流工事着手	(写真2)
平成12年6月	胆沢ダム建設に関する基本計画変更告示	
平成12年10月	胆沢ダム学習館開館	
平成15年1月	ダム堤体基礎掘削工事着手	(写真3)
平成15年5月	付替国道397号1次供用	
平成15年10月	胆沢川を仮排水トンネルへ切替(転流)	
平成17年10月	堤体盛立開始(コア材：H18.4月)	(写真4)
平成18年10月	定礎式 洪水吐きコンクリート打設開始	(写真5)
平成20年6月	岩手・宮城内陸地震(M7.2)	
平成22年5月	堤体盛立完了	
平成22年8月	付替国道397号全線供用開始	
平成23年3月	東北地方太平洋沖地震(M9.0)	
平成23年9月	洪水吐きコンクリート打設完了	
平成24年10月	石淵ダム・胆沢ダム引継式	(写真6)
平成24年12月	試験湛水開始	
平成25年5月	6日21時 最高水位到達	
平成25年9月	胆沢ダム学習館閉館式	
平成25年10月	11日 最低水位到達 試験湛水終了	
平成25年11月	16日 胆沢ダム竣工式	(写真7)
平成26年4月	1日 胆沢ダム管理移行	(写真8)



【写真1】一般補償基準妥結調印



【写真2】転流工事着手



【写真3】本体着工



【写真4】堤体盛立開始



【写真5】定礎式



【写真6】石淵ダム・胆沢ダム引継式



【写真7】竣工式



【写真8】開所式

## 地域とともにあゆんできた胆沢ダム

胆沢ダムは、環境巡視隊(H7~)をはじめ地域の皆様との連携により「人と自然が調和」し、また北上川流域の皆様からの支援・協力をいただいています。31年間、皆様とともにあゆんできた胆沢ダムです。



胆沢ダム学習館(H12~25)



原石山森づくり(H19~25)



胆沢ダム見学会(H16~25)



石淵ダム感謝式(H24.9)



試験湛水最高水位時に約2万人が見学



ダム下流の桜の植樹式(H25.10)

## ビューポイント



奥州湖眺望台からのダム・貯水池



奥州湖眺望台からの下流扇状地



下流から胆沢ダムを望む